

山梨県衛生環境研究所年報

平成 29 年 第 61 号

Annual Report of the Yamanashi Institute
of Public Health and Environment

No. 61, 2017

山梨県衛生環境研究所

はじめに

当研究所は、食品や水道水をはじめ、感染症、食中毒、衛生害虫、大気、水環境といった県民生活に密着した様々な試験検査や調査研究を行う、地域における科学的・技術的な中核機関として、県民生活の安全と安心を支える重要な役割を担っています。

近年は、新型インフルエンザ、中東や韓国での MERS（中東呼吸器症候群）、西アフリカにおけるエボラ出血熱、国内でのデング熱及び麻疹など、多くの感染症の流行があり、異常気象や地震などによる自然災害も発生しました。また、平成 29 年度には、そう菜店を発端とした食中毒事案、ヒアリの国内初確認など、様々な問題が国際化、広域化、大規模化しております。これらの諸問題に対し、安全を確認し、県民の生命と健康を守り、快適な環境を確立していくため、当研究所の役割は、今後ますます重要になってくると考えています。

来年5月には、平成から新しい時代になることが決定されています。新しい時代に向け、今後も信頼される研究所を目指し、関係機関と連携しながら、健康や環境に対する危機管理能力の向上や県民への情報提供に努め、更なる試験検査・調査研究の機能強化を図って参りますので、今後とも、なお一層の御理解と御支援をお願いいたします。

ここに、平成 29 年度の調査研究成果と業務概要を「山梨県衛生環境研究所年報第 61 号」として取りまとめましたので、御高覧の上、御指導、御助言をいただければ幸いです。

平成 30 年 11 月

山梨県衛生環境研究所

所長 大澤 かおり

目 次

I	組織と沿革	1
II	業 務 報 告	
	企画情報科・総務スタッフ	2
	生活科学部	8
	微生物部	10
	環境科学部	13
III	資 料	15
IV	論文抄録等	28
V	研 究 報 告	31
	増富温泉地内自然湧泉の ²²² Rn濃度の経時的変化について(II)	32
	コリジョン/リアクションセル付きICP-MS法による 水試料中臭化物(Br)の定量	36
	牛、鶏及び馬の内臓の生食による健康被害のリスク分析	41
	山梨県におけるインフルエンザウイルスの検出状況(2017~2018)	44
	山梨県内に流通する貝類におけるウイルス汚染実態調査	47
	梅おにぎりが原因と考えられたセレウス菌による食中毒事例	50
	湖底堆積物(柱状試料)中の珪藻殻からみた河口湖の富栄養化	53
	山梨県内河川の水温、pHの長期変動	57
	四尾連湖における水生植物について(2015年夏季)	63
	葉状地衣類の大気汚染に対する指標性について	65
	強放射能泉・山梨県増富温泉に生息する珪藻	70